写

認　定　書

国住参建第 2484 号
令和 7 年 10 月 16 日

ニチハ株式会社
代表取締役社長　吉岡　成充 様

国土交通大臣　　金子　恭之

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二及び同法施行令第 107 条の 2 第二号（軒裏：30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
　　QF030RS-0156-2

2. 認定をした構造方法等の名称
　　通気見切り金物・両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

3. 認定をした構造方法等の内容
　　別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。
　　令和 7 年 10 月 1 日より大臣印の押印が廃止されております。

別　添

1. 構造名：
通気見切り金物・両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

2. 仕様の寸法：
仕様の寸法を表1に示す。

表1　仕様の寸法

項　目	仕　様
軒の出	2000㎜以下
軒の形状	勾配又は水平
通気見切り金物の位置	壁側又は鼻隠し側

3. 仕様の主構成材料：
仕様の主構成材料を表2に示す。

表2　仕様の主構成材料

項　目	仕　様
被覆材	材料：両面化粧有機質系繊維混入セメント板 組成(質量%)： セメント　26(±2) けい酸質原料　44(±5) 無機質混和材　22(±7) 有機質繊維　6(±2) 有機質混和材　2(±1) 但し、 無機質混和材　：パーライト、マイカ等 有機質繊維　：パルプ、合成繊維等 有機質混和材　：パルプ粉等 塗料(表裏面) 材料：1)～6)の一 1)アクリルウレタン樹脂系塗料 2)アクリル樹脂系塗料 3)アクリルシリコーン樹脂系塗料 4)ふっ素樹脂系塗料 5)エポキシ樹脂系塗料 6)ポリシロキサン樹脂系塗料 塗布量：表裏面合計350g/m²以下(有機固形分量)
	密度：0.9(-0.1)g/cm³以上
	形状： 1)表面形状 厚さ：12～25(±1)㎜ 幅　：455㎜以上 2)断面形状 最低板厚(中実部)：10㎜以上 容積欠損率(模様深さ)：8.8%以下 (但し、板厚12㎜を超える場合は裏面から12㎜の位置での欠損率とする) 3)表面の形状：①～④の一 ①平滑 ②平滑・溝加工 ③エンボス ④エンボス・溝加工

つづく

つづき

通気見切り金物	本体 材料：①～⑰の一 ①溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3321) ②溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3317) ③溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3302) ④ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム及びアルミニウム合金板は除く) ⑤溶融亜鉛－アルミニウムマグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) ⑥塗装／亜鉛めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697) ⑦塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3312) ⑧塗装溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3318) ⑨塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3322) ⑩熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯(JIS G 4304) ⑪冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯(JIS G 4305) ⑫ポリエチレン被覆溶融亜鉛めっき鋼板 ⑬一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) ⑭冷間圧延鋼板及び鋼帯(JIS G 3141) ⑮熱間圧延軟鋼板及び鋼帯(JIS G 3131) ⑯電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3313) ⑰溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3314) 厚さ：0.4mm以上 換気孔の寸法(1孔あたり)：4.5(±2.0)×16.5(±2.0)mm以下(面積0.75cm^{2}以下) 換気孔間隔：2(-0.5)mm以上 換気孔面積：114.35cm^2/m以下 塗料：あり又はなし 種類：1)～10)の一 1)アクリルウレタン樹脂系 2)アクリル樹脂系 3)アクリルシリコーン樹脂系 4)ふっ素樹脂系 5)エポキシ樹脂系 6)ポリシロキサン樹脂系 7)ポリエステル樹脂系 8)エポキシ・ポリエステル樹脂系 9)ポリウレタン樹脂系 10)ウレタン樹脂系 塗布量：300g/m^{2}以下(有機固形分量) (但し、材料⑥～⑨の塗装、④及び⑫の被覆に含まれる有機固形分量を含む)

つづく

つづき

通気見切り金物	加熱発泡材 仕様：あり又はなし 材料：①及び② ①グラファイト系加熱発泡材 組成(質量%)： 膨張黒鉛　30(±10) 粉末充てん材　20(±10) ゴムバインダー　15(±10) 耐熱性繊維類　20(±10) 難燃剤・ゴム薬品等　15(±10) 寸法：2.3(-0.3)×11.5mm以上 ②固定用粘着剤 材質：a)～c)の一 a)アクリル系 b)ゴム系 c)合成樹脂系 厚さ：0.34(±0.05)mm以下 幅：①グラファイト系加熱発泡材の幅以下
	フラップ 仕様：あり又はなし 材料：塩化ビニル樹脂 厚さ：1.2mm以下
	接合部材 仕様：あり又はなし 材料、厚さ、塗料：通気見切り金物本体と同じ
野縁	材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、枠組壁工法構造用製材、集成材、枠組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：軒の出方向500mm以下
吊り木	仕様：あり又はなし 材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、枠組壁工法構造用製材、集成材、枠組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：軒の出方向500mm以下

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3　仕様の副構成材料

項　目	仕　様
目地部材	仕様：(1)～(3)の一 (1)突付け目地 (2)金属ジョイナー 材質：鋼製又はステンレス鋼製(塗装、被覆鋼板又はめっき鋼板を含む) 厚さ：0.25mm以上 形状：H形又はT形 (3)本実・合いじゃくり目地 端部形状(被覆材相互の重なりと隙間) 重なり：6mm以上、隙間：3mm以下 目地部防水材：あり又はなし 材料：合成ゴム 使用量：5g/m以下
受材	材料：日本農林規格の品質を満足する木材(製材、枠組壁工法構造用製材、集成材、枠組壁工法構造用たて継ぎ材、単板積層材、構造用パネル又は合板) 断面寸法：30×40mm以上 取付間隔：被覆材接合部ごと
留付材	通気見切材固定用： 材料：ねじ 寸法：呼び径φ3.6×長さ28(-1)mm以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：455mm以下
	被覆材固定用： 材料：①～③の一 ①リングくぎ ②スクリューくぎ ①及び②の寸法：胴部径φ2.3×長さ38mm以上 ③タッピンねじ 寸法：呼び径φ2.0×長さ25mm以上 材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：227mm以下
	野縁固定用(たるきへの固定)： 材料：①～③の一 ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N75以上 ②くぎ 寸法：胴部径φ2.75×長さ75mm以上 ③タッピンねじ 寸法：呼び径φ2.5×長さ40mm以上 ②及び③の材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：500mm以下

つづく

つづき

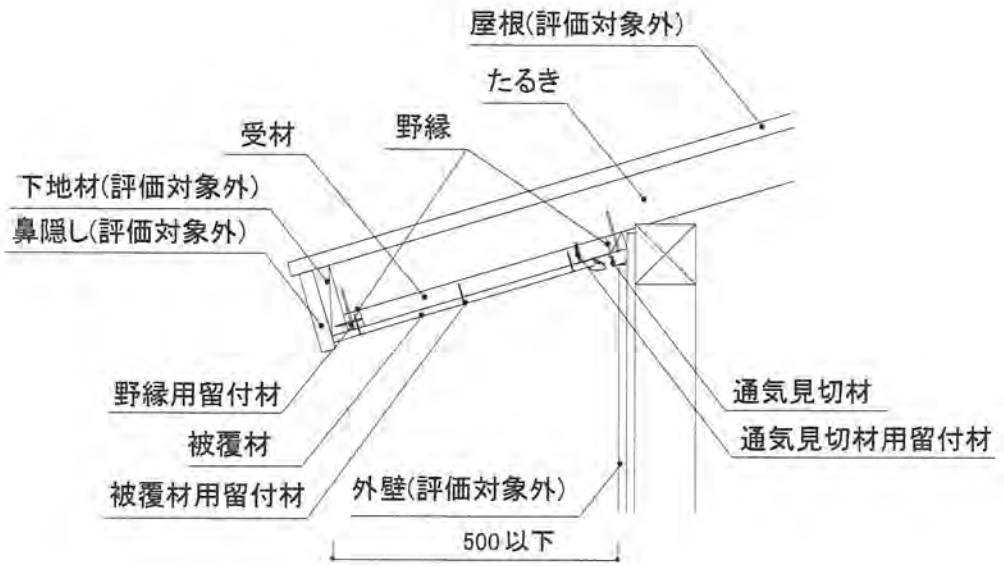
留付材	野縁固定用(鼻隠し下地への固定)： 材料：①～③の一 ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N50以上 ②くぎ 寸法：胴部径φ2.75×長さ50mm以上 ③タッピンねじ 寸法：呼び径φ2.5×長さ40mm以上 ②及び③の材質：鋼製又はステンレス鋼製 留付間隔：500mm以下
	吊り木固定用(吊り木を用いる場合)： 材料：①～③の一 ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N50以上 ②くぎ 寸法：胴部径φ2.75×長さ50mm以上 ③タッピンねじ 寸法：呼び径φ2.5×長さ40mm以上 ②及び③の材質：鋼製又はステンレス鋼製

5.仕様の構造説明図：

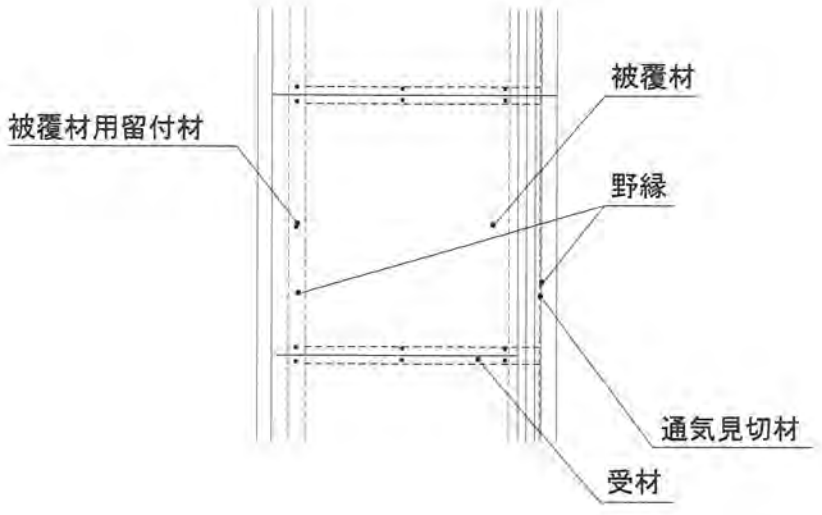
仕様の構造説明図を図1～図10に示す。

図中の単位については、特記のない限りmmとする。

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が 500mm 以下の場合



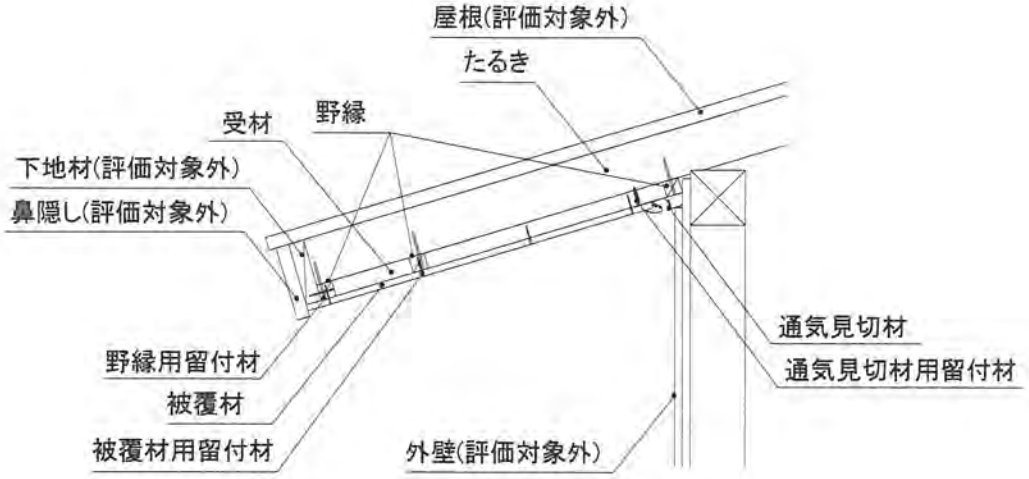
軒部詳細図



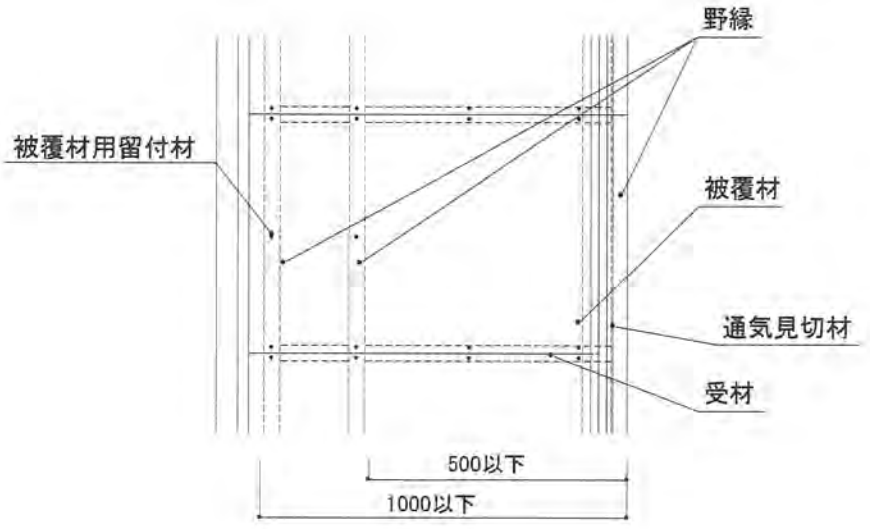
被覆材平面図

図1　構造説明図

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が 500㎜ を超え 1000㎜ 以下の場合



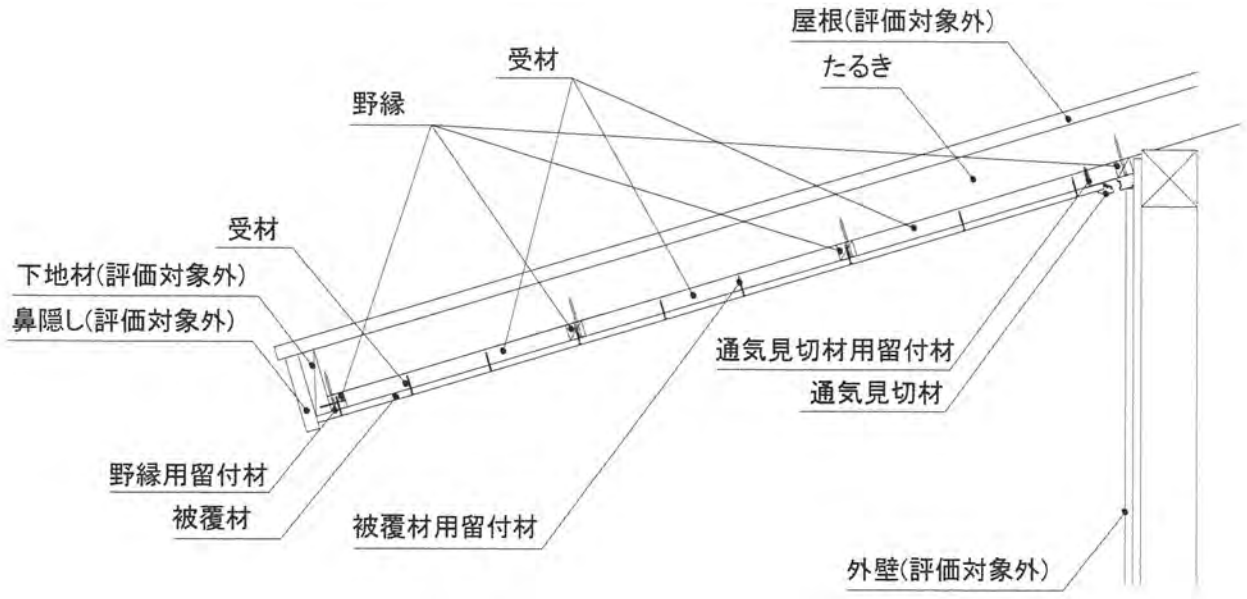
軒部詳細図



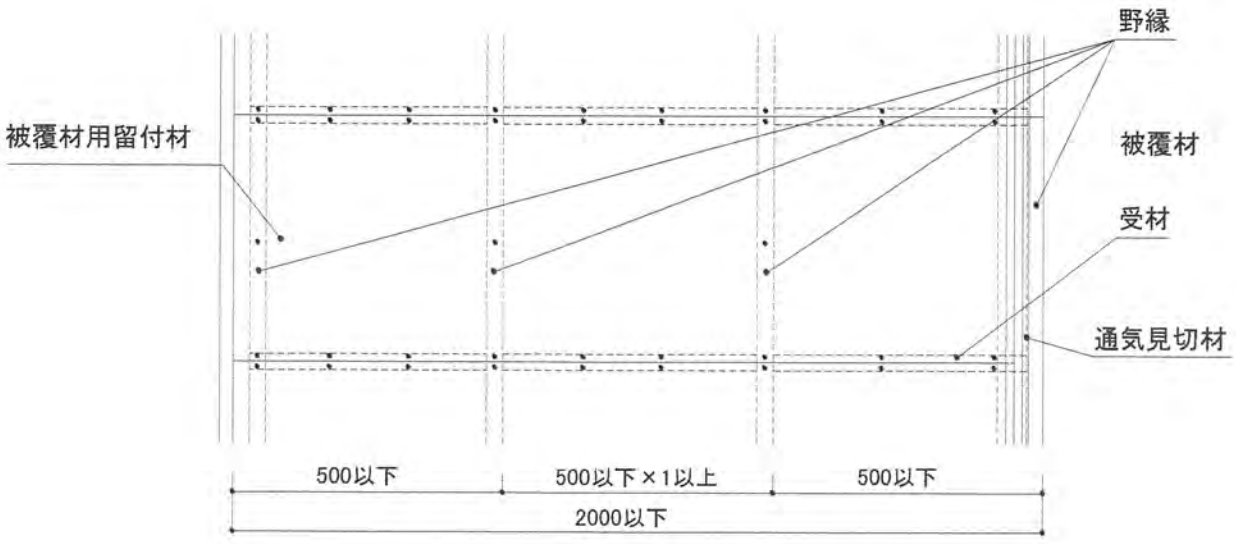
被覆材平面図

図2　構造説明図

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が 1000㎜ を超え 2000㎜ 以下の場合



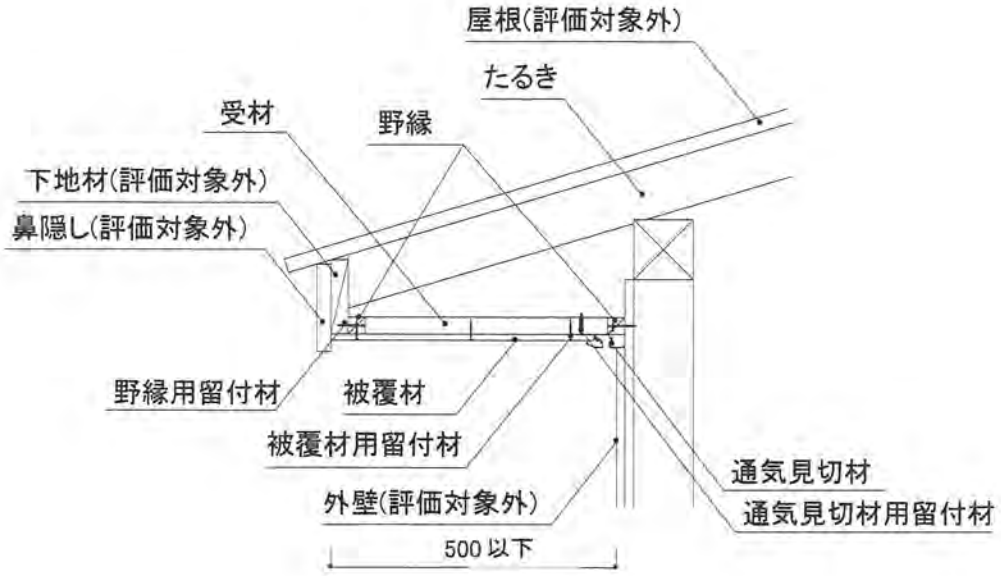
軒部詳細図



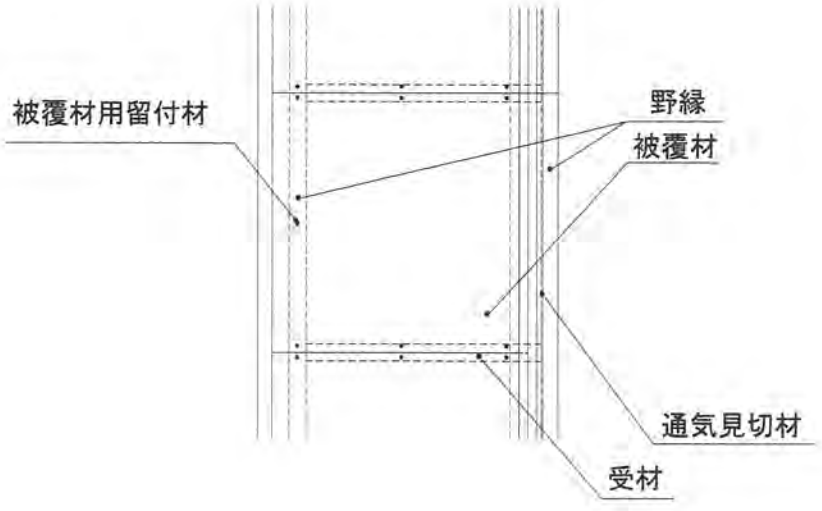
被覆材平面図

図3　構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が 500mm 以下の場合



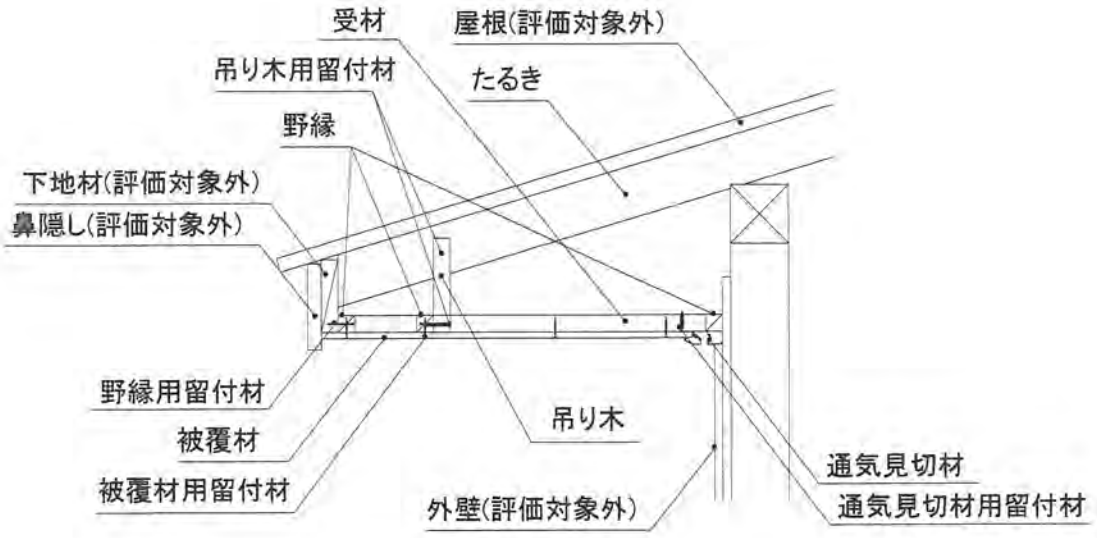
軒部詳細図



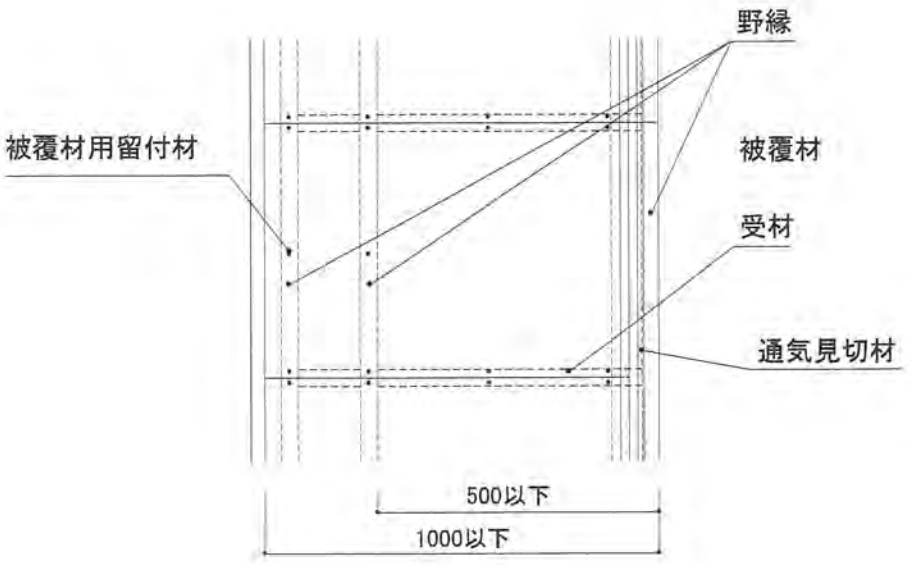
被覆材平面図

図4　構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が 500㎜ を超え 1000㎜ 以下の場合



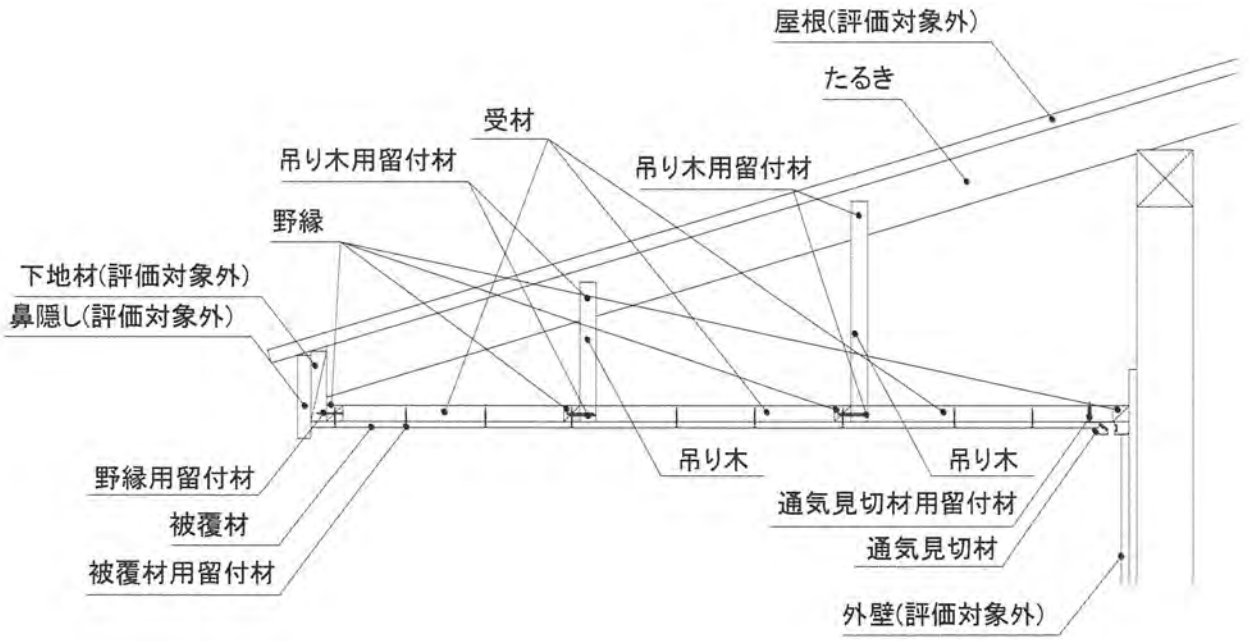
軒部詳細図



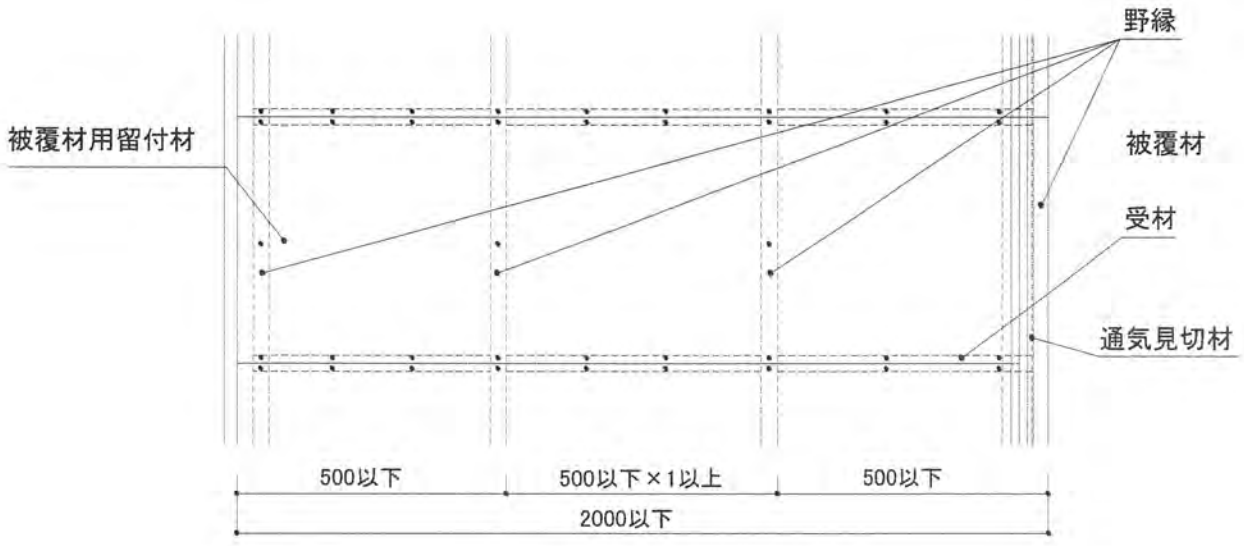
被覆材平面図

図5　構造説明図

被覆材水平
軒の出（被覆材長さ）が1000㎜を超え2000㎜以下の場合

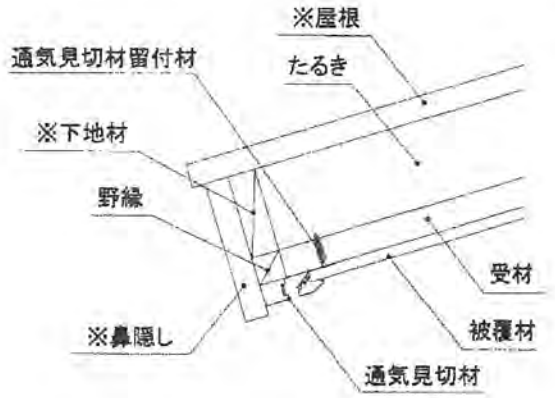


軒部詳細図

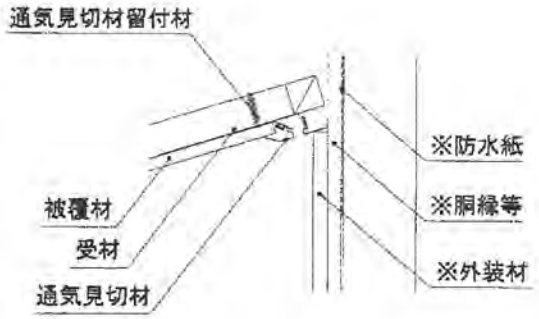


被覆材平面図

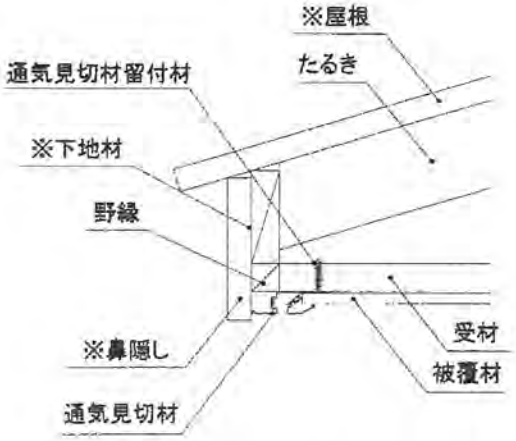
図6　構造説明図



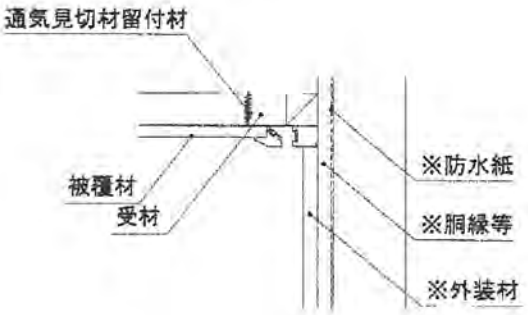
被覆材勾配、通気見切材勝ち、
通気見切材軒先施工の場合



被覆材勾配、通気見切材勝ち、
通気見切材軒壁側施工の場合



被覆材水平、通気見切材勝ち、
通気見切材軒先施工の場合



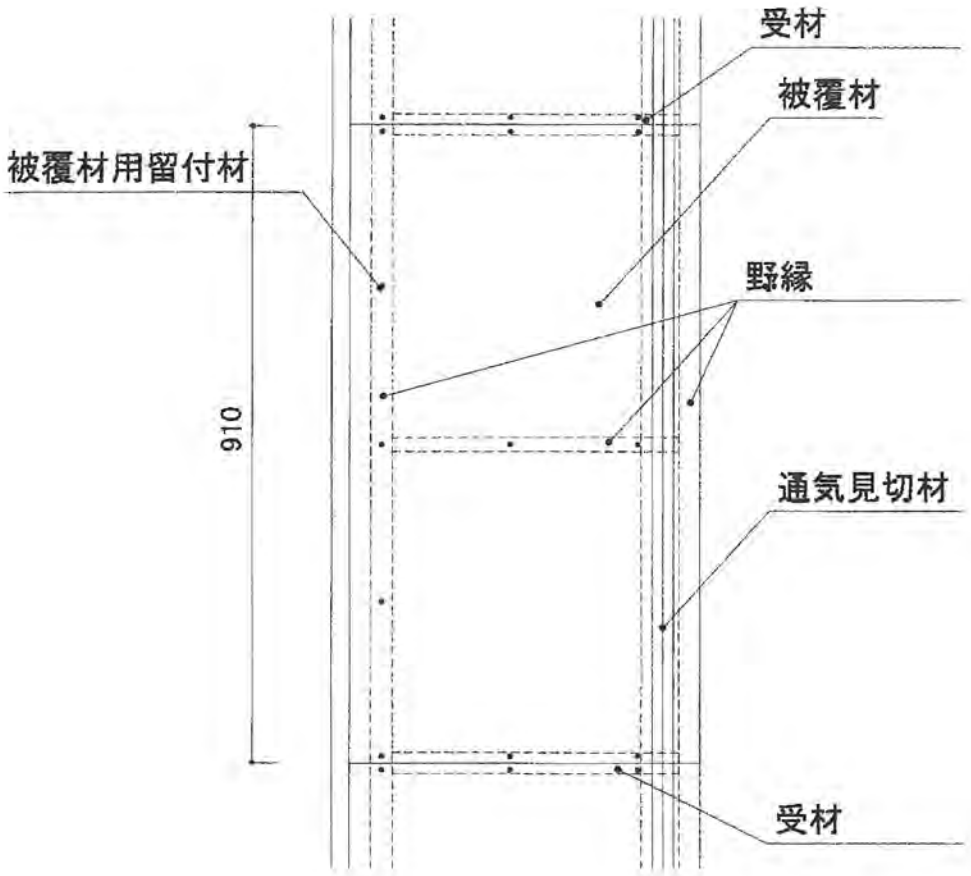
被覆材水平、通気見切材勝ち、
通気見切材壁側施工の場合

※:評価対象外

軒元及び通気見切材の納まり

図7　構造説明図

単位mm



被覆材が455幅以上の場合の留付例：910幅製品の場合

図8　構造説明図

単位mm

＜通気見切り材図＞

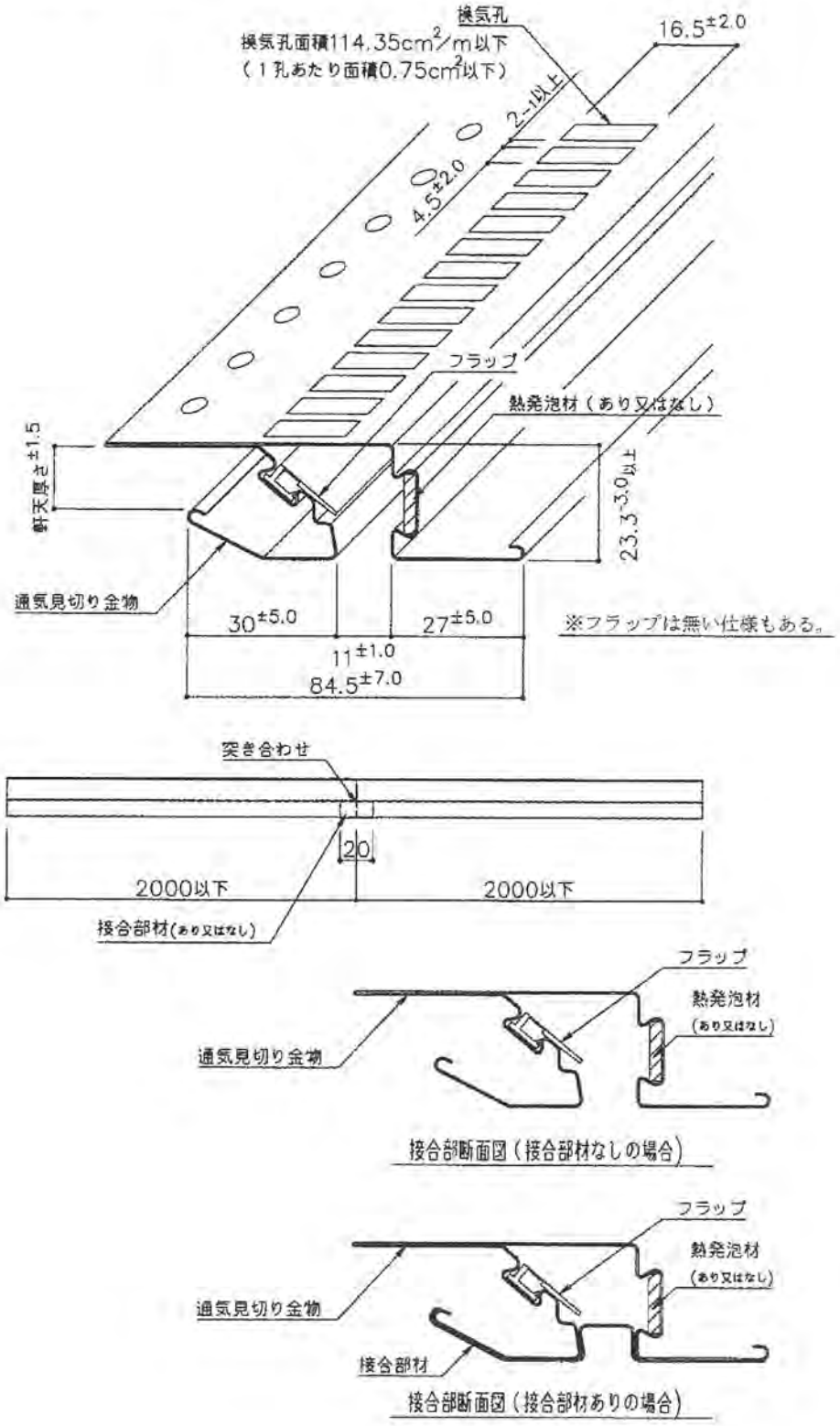
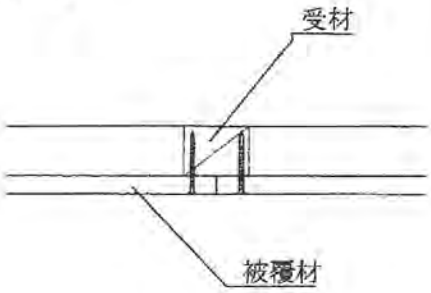
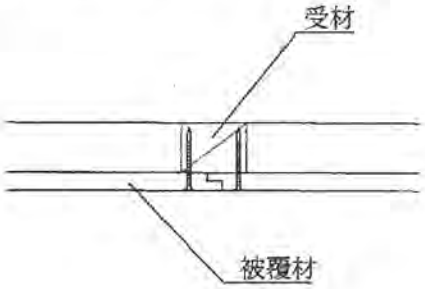


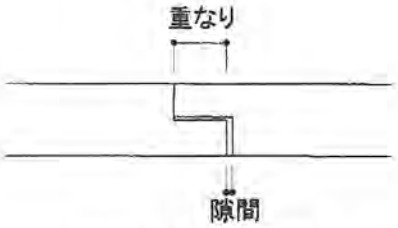
図9　構造説明図

①突付け目地



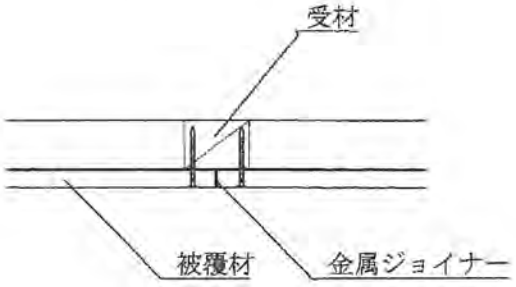
②本実・合いじゃくり目地



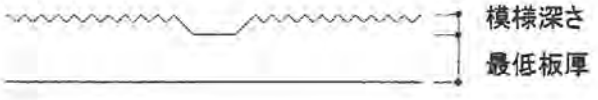


合いじゃくり形状

③金属ｼﾞｮｲﾅｰ目地



被覆材の目地処理(目地部材)



被覆材断面形状

図10　構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図11～図16に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1)たるき・下地の取付け

たるきは、構造耐力上安全なものとし、たるきに下地材を取付ける。

(2)野縁・受材の取付け

1)軒の出(被覆材長さ)が500㎜以下の場合は、野縁を軒の出方向及び軒の幅方向に、受材を被覆材接合部に配置し、野縁又は受材取付間隔が500㎜以下となるよう、留付材を用いて下地材、たるきに取付ける。

2)軒の出が500㎜を超える場合は、必要に応じて吊り木を設け、1)と同様の方法で下地材、たるき又は吊り木に取付ける。

(3)通気見切材の取付け

通気見切材は、通気見切材固定用留付材を用いて野縁又は受材に取付ける。

(4)被覆材の取付け

1)被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて野縁に取付け、取付方法は並行組又は梯子組とする。

2)目地仕様は、突付け、金属ジョイナー又は本実・合いじゃくりとし、合いじゃくり部の目透かし幅は3㎜以下とし、重ね代は6㎜以上とする。

3)被覆材と外装材は壁勝ち又は軒勝ちとし、必要に応じて金属製小口見切り又はシーリング材等でおさめる。

7. 注意事項：

・鼻隠しは、準耐火建築物においては「準耐火建築物の防火設計指針」(一般財団法人 日本建築センター)に準じた仕様とするなど、所定の防耐火性能が確保される仕様とする。

・本構造に使用される各留付材は、構造説明図に記載される所定の留付先に十分なかかり代が確保されるよう、留め付けている材料の寸法に応じた適切な長さで使用する。

・本仕様を施工するにあたっては、本仕様と外壁および屋根等の取り合い部分において、炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。

被覆材勾配
軒の出500㎜以下の場合

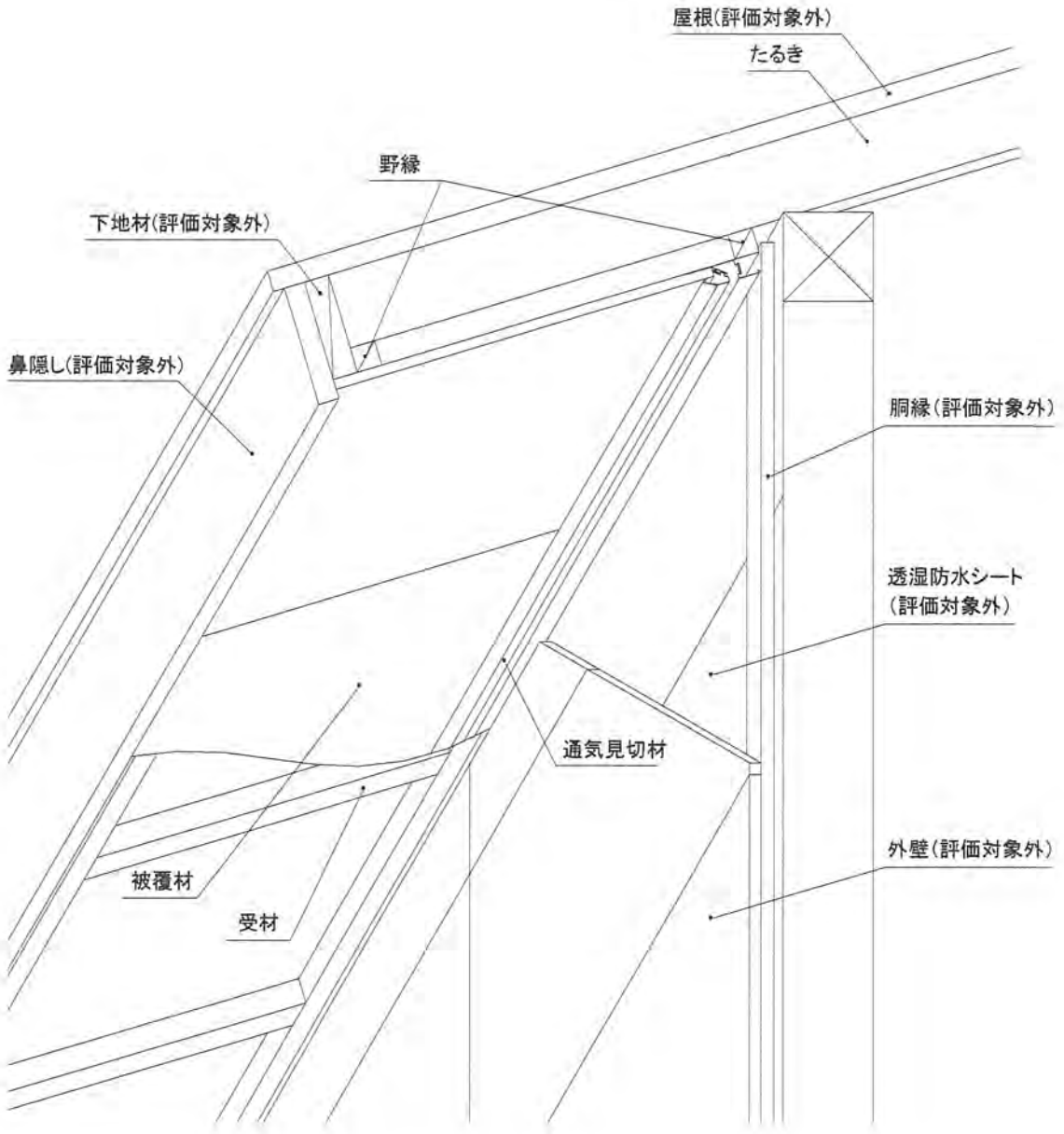


図11　施工図

被覆材勾配
軒の出500㎜を超え1000㎜以下の場合

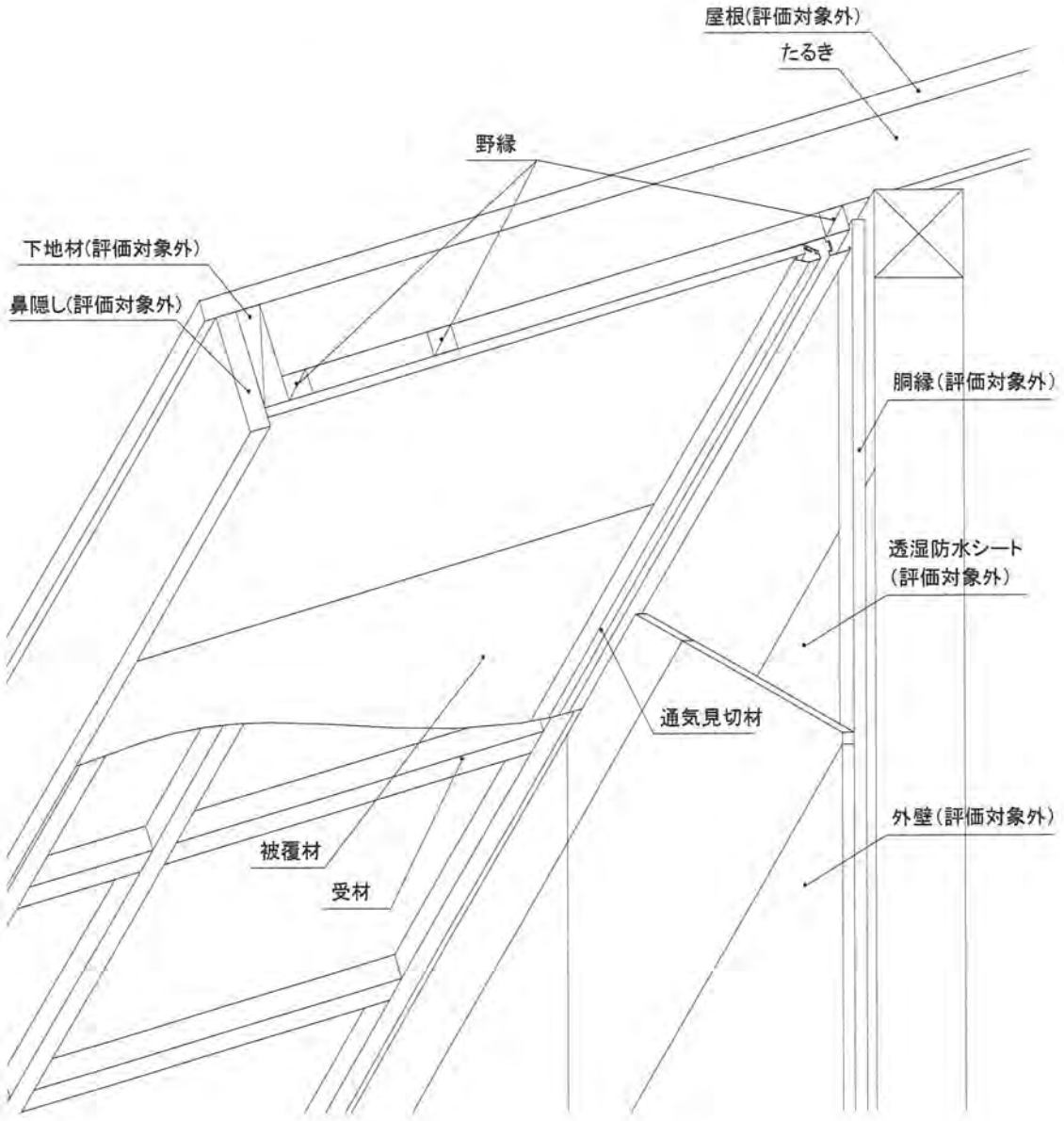


図12　施工図

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が 1000mm を超え 2000mm 以下の場合

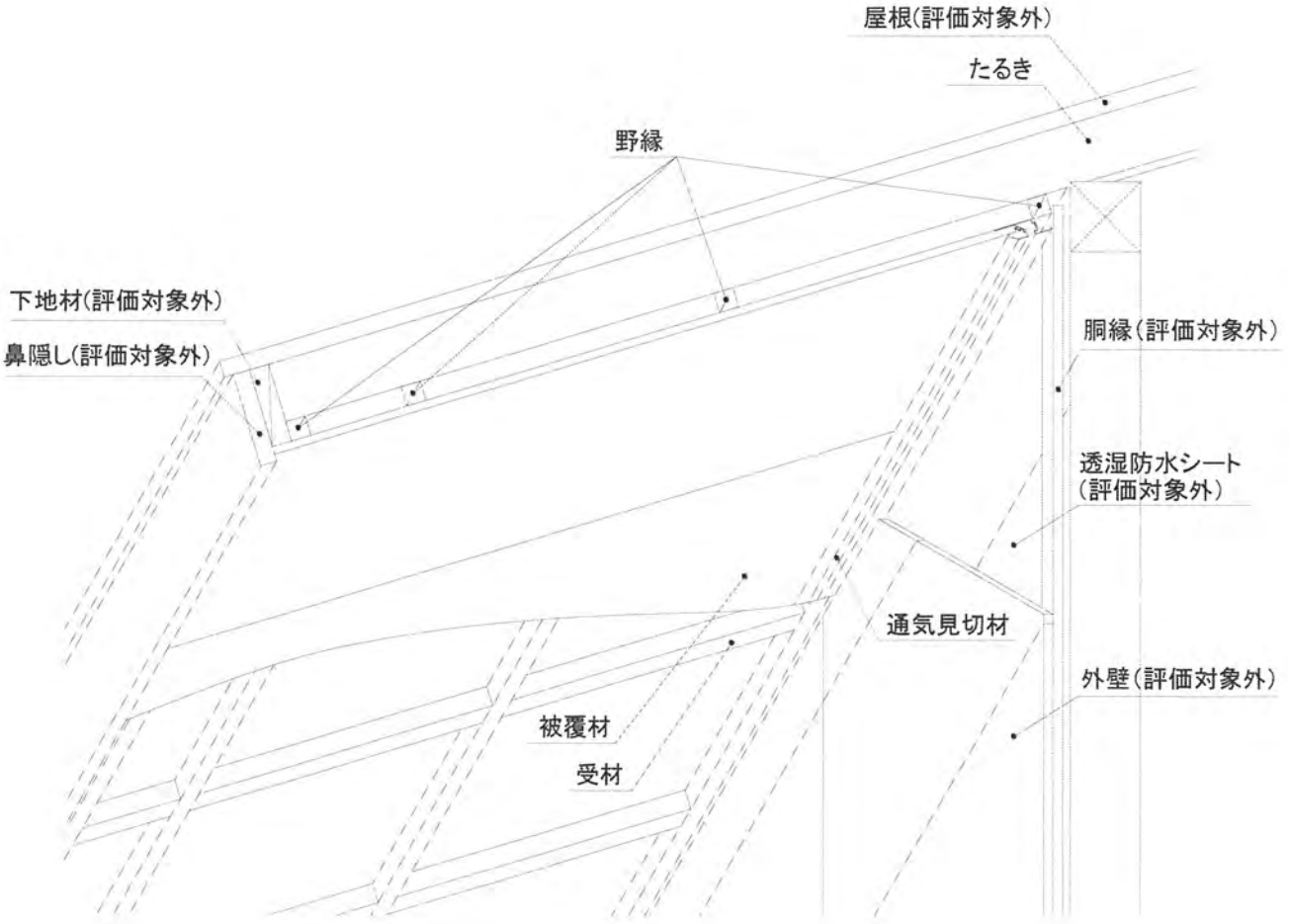


図13　施工図

被覆材水平
軒の出500以下㎜の場合

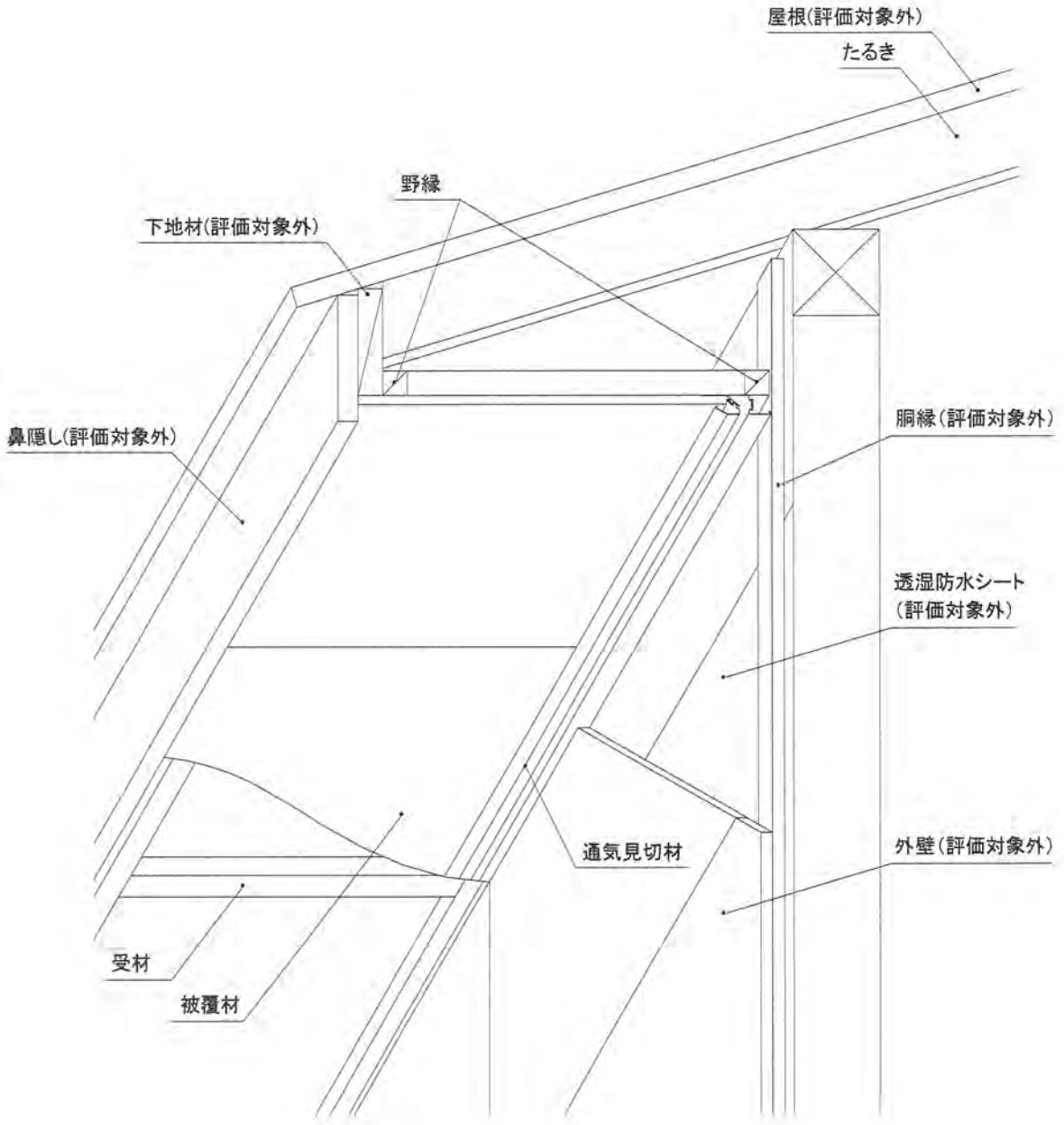


図14　施工図

被覆材勾配
軒の出500㎜を超え1000㎜以下の場合

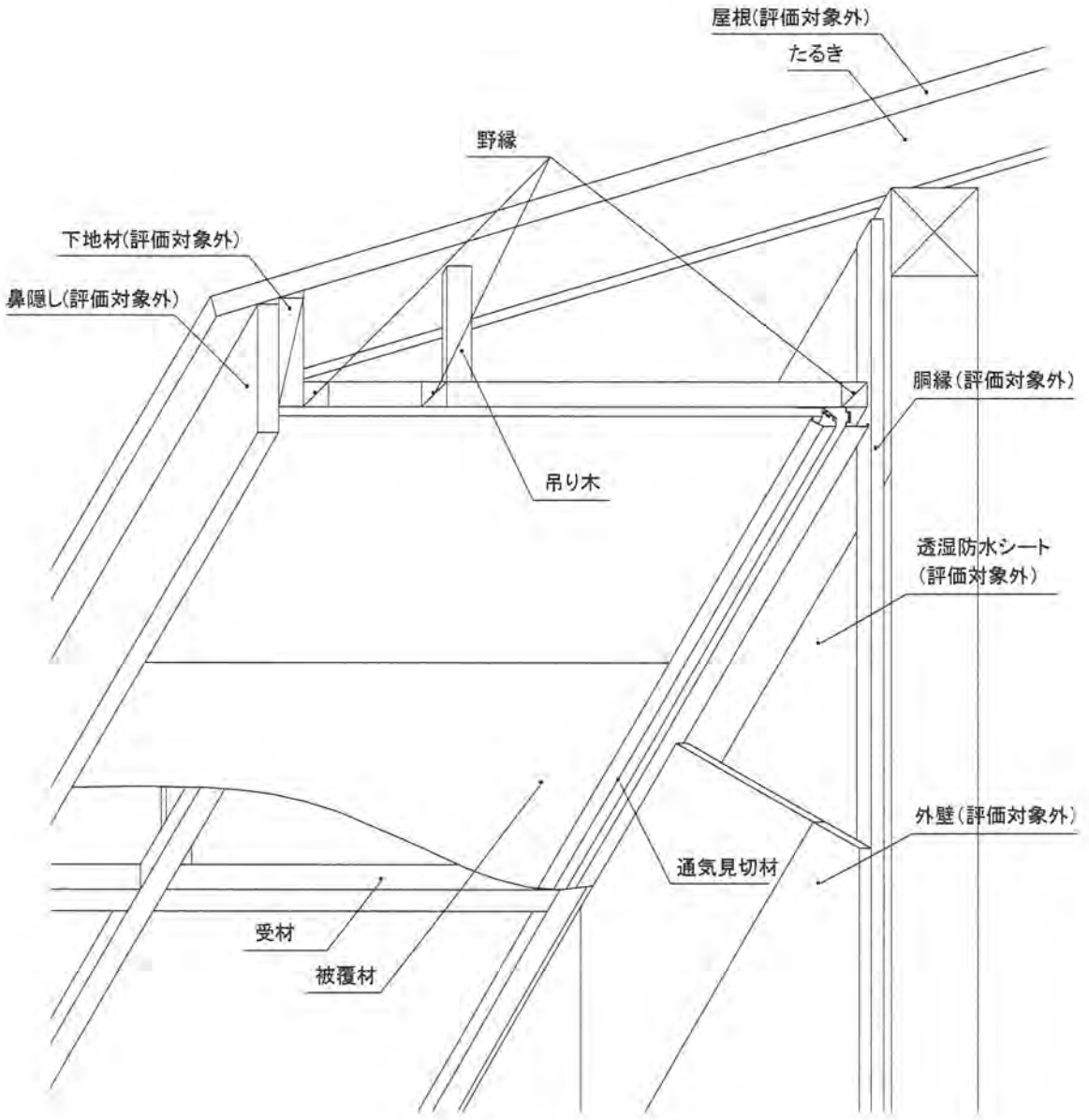


図15　施工図

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が 1000mm を超え 2000mm 以下の場合

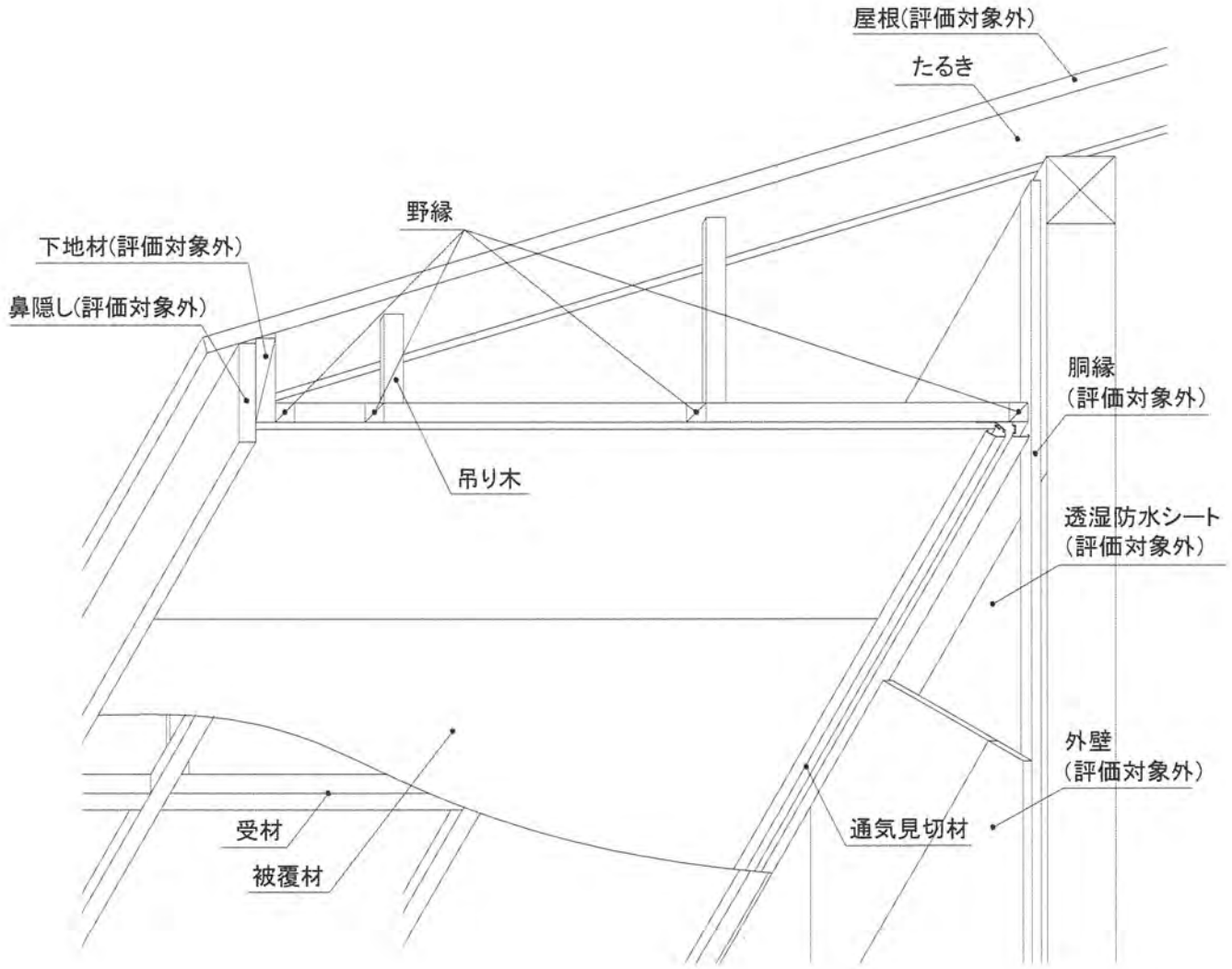


図16　施工図